

経済産業省における認知症関連施策の動向

令和6年12月19日

経済産業省 商務サービスグループ ヘルスケア産業課 小野 聡志

認知症イノベーションアライアンスWG：令和6年度協議内容

- 認知症イノベーションアライアンスWGは、認知症の人の尊厳・想いを尊重しながら、産業、公的機関、医療、福祉等様々なステークホルダーと連携し、イノベーション創出に向けた検討を行う場。
- 令和6年度は、当事者参画型開発モデルの普及、事業者向け開発ガイダンスの策定・普及、研究開発の推進等の論点についての進捗を報告し、必要とされる認知症施策について議論。

令和6年度委員選定および開催日程・方法

- 座長 … 東京大学 岩坪教授
- 委員 … 28名（学識、企業、当事者等）
- オブザーバー … 厚生労働省等
- 第1回：令和6年11月19日
- 第2回：令和7年2月頃

認知症イノベーションアライアンスWG（事務局：経産省、日本総研）

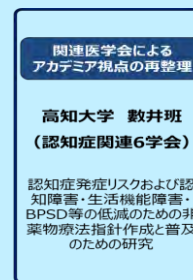
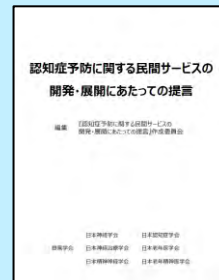
①当事者参画型開発モデルの推進

オレンジイノベーション・プロジェクトの推進



②認知症予防市場の環境整備

認知症関連6学会による「提言」や「指針」の整備



③研究開発の促進

共生・予防等に関してエビデンスを構築する実証事業を支援



当事者参画型開発の取組の目的

- 認知症の人が企業の開発プロセスに「参画」し、企業とともに新しい価値を生み出す「共創」を行う「当事者参画型開発（＝オレンジイノベーション・プロジェクト）」を推進。
- 本取組の目的は、共生社会の実現に資する質の高いソリューションが創出される仕組みの構築。

当事者参画型開発の取組み



本取組における「当事者参画」、「参画」、「開発」の定義・考え方

- 本取組における「当事者参画」とは、「製品やサービスに対するニーズをもつ**認知症の人自身が、協力の意思を持って**、それらの製品・サービスの開発プロセス（企画、実施、評価等）に『参画』すること」と定義する。
- 認知症の人の主体的な協力意思を伴わない、一方的な観察や意見聴取は「当事者参画」とは言えない。**
- 「認知症の人のニーズを反映した製品・サービス」であること条件として、認知症の人の意見が製品・サービスの「コアあるいはそれに近い部分」への反映を意図したものである必要がある。
- ここでの「開発」は**新しい製品・サービスの創出だけでなく、既存の製品・サービスを認知症の人の意見をもとに改良することも含む。**

オレンジイノベーション・プロジェクト

- 企業に対しては、**資金補助ではなく、当事者とのマッチングを支援**
- 協力いただいた当事者には、**企業から何らかの謝礼**（謝金やサンプル）が、企業負担で支払われる仕組み

令和4年度 「当事者参画型開発」モデル試行的実践 実践企業・団体（5企業・団体）

令和5年度 企業公募開始 オレンジイノベーション・プロジェクト 実践企業・団体（20企業・団体）

令和6年度 オレンジイノベーション・プロジェクト 実践企業・団体（46企業・団体）



【参考】開発している製品・サービスの例



- スケジュール管理を支援する
分かりやすいデザインの
「日めくりカレンダーアプリ」 yottey(ヨッテイ)



- 紙の日めくりカレンダーをデジタルで再現し、日付と曜日表示をメインとしたデジタル日めくりカレンダー。



- 空間認知を苦手とする方が安心して外出できるよう、家族のこゝで移動支援するナビガイドサービス。



- かかとも、左右・前後も無い、履き口が分かりやすい、認知症の人にも履きやすい靴下



- いつでもどこでもメモができ、自然に目に入って思い出せる、手首に巻きつけて“身につけるメモ帳”「wemo」



- 使いすぎ防止やワンタッチカード停止などの機能を搭載したキャッシュレスサービス



- 日々のできごとを写真とセットで記入して、記憶を手帳に記録する形で保持する「おぼえている手帳」



- 自然な聞こえを実現した最新の聴覚支援システム。イヤホン部と本体2つのマイクを搭載し、環境に合わせた自然な聞き取りを可能にする。



- 慣れ親しんだガス火調理をいつまでもシニア世代向けガスコンロ SAFULL+ (セーフルプラス) 視覚的な分かりやすさのためにカラーリング、デザイン等を工夫。

かんたんコミュニケーションツール

ケアびん



- 簡単な操作で、離れて暮らす家族等とのコミュニケーションや、趣味コンテンツを楽しめる専用アプリケーションがセットされたタブレットサービス。



- ボタン操作だけで使える可愛いロボット。ご家族との音声メッセージのやりとりや、服薬やゴミの日などのお知らせ機能を通じて、日々の暮らしをサポートする。



- 、脳の健康によい心拍数を把握しながら好きな運動や身体活動を行うことができるアプリ。



- 思い出の写真と楽しい会話でふたたび輝く「TEKODEKO RECOLLECTION 人生まるごと回想アルバム」

パートナー団体の拡大（1 / 2）

- 日本認知症本人WG、認知症の人と家族の会、厚生労働省と連携し、開発に参画する認知症の人の募集にご協力いただくパートナー団体、自治体、介護事業者、医療機関等の拡大に向けた取組を実施。
- 令和6年11月時点で認知症の人148人、家族16人、支援者47人が開発活動に参画。 ※今年度実績値

黒字：過年度より参画
 青字：今年度より参画
 （予定を含む）

自治体

- 京都府
- 兵庫県太子町
- 三重県四日市市

介護事業者

- 特別養護老人ホーム 六甲の館

医療機関

- 京都府こころのケアセンター
若年性認知症支援チームおれんじブリッジ

当事者団体等

- 地域共生開発機構 ともつく
- レイの会
- NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター
- ひょうご認知症希望大使活動パートナー

自治体

- 鳥取県鳥取市

自治体

- 福岡県福岡市
- 福岡県宗像市
- 大分県

介護事業者

- ケアグループなでしこ

自治体

- 山形県天童市

自治体

- 静岡県三島市

当事者団体等

- NPO法人ニット

自治体

- 東京都八王子市
- 埼玉県さいたま市
- 神奈川県
- 神奈川県大和市、横須賀市

介護事業者

- 有限会社ハピア オレンジカフェ/ハハ
- 100BLG株式会社
- NPO法人シニアライフセラピー研究所『亀吉』
- 社会福祉法人池上長寿園
大田区若年性認知症支援相談窓口

医療機関

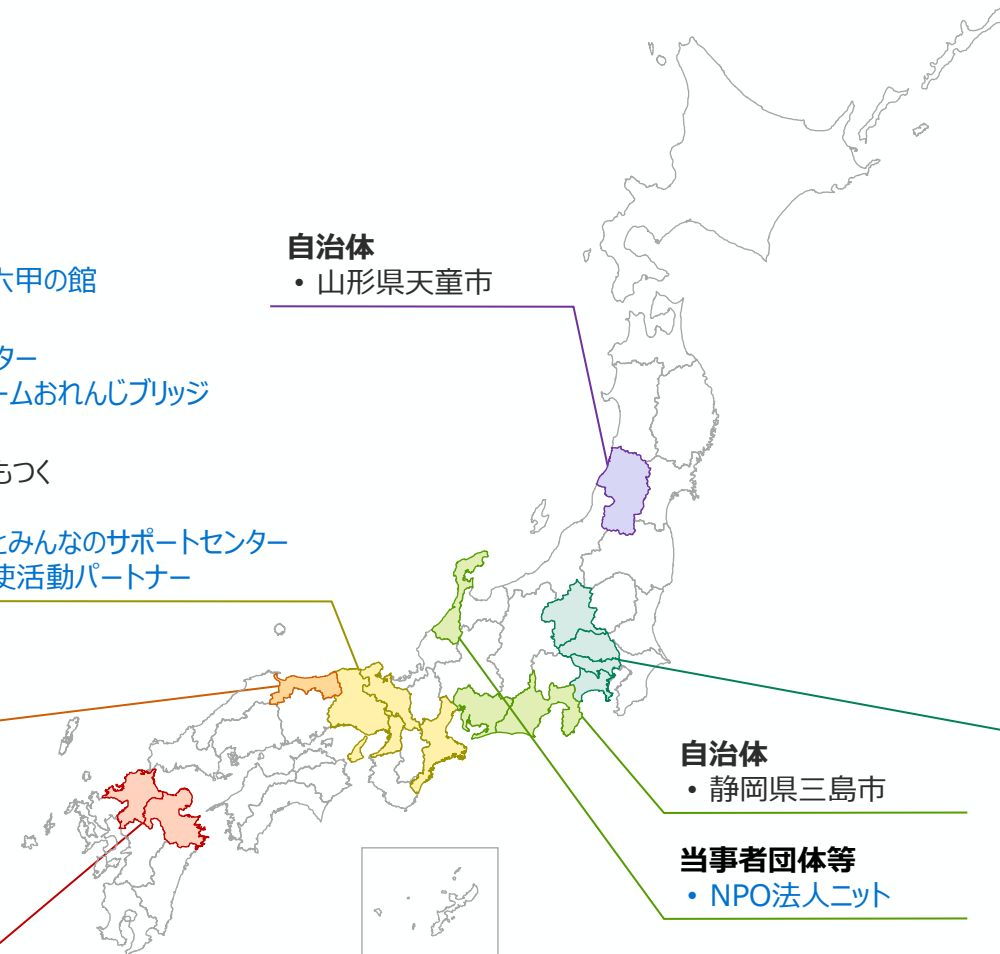
- 東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」

当事者団体等

- NPO法人マイway
- リンクafe
- さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター
- わすれな草の会
- 一般社団法人ユニオン

当事者団体等

- JDWG
- 認知症の人と家族の会



パートナー団体の拡大（2 / 2）

- 今年度は、昨年度まで連携実績が少なかった医療機関や介護事業者等との連携にも注力。
- 豊島株式会社は東京医科大学病院と連携し衣服や靴をテーマに、アデッソ株式会社はBLG八王子と連携し、デジタル日めくりカレンダーをテーマに、認知症の人とともに開発を推進中。

東京医科大学病院 認知症カフェ「認茶屋」×豊島株式会社

- 日付：9月11日
- 場所：東京医科大学病院
- 参加者：認知症の人 2名、ご家族 2名



デザイン、色・柄で着たいものが見当たらない。

企業側の工夫が当事者へ伝えきれていない。



使い勝手同様に安全性への配慮が欲しい。

機能面だけでなく洗濯時への配慮が欲しい。

BLG八王子×アデッソ株式会社

- 日付：8月27日
- 場所：BLG八王子
- 参加者：認知症の人 8名



ゴミの日等の予定も分かりやすく表示して欲しい。

既存品はスイッチが小さく、操作が難しい。



ナショナルブランドのデジタル日めくりカレンダーを購入したが、機能が多すぎて使いこなせない。

実践事例：株式会社小谷常

- 小谷常は京都府京丹後市で病気や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく宿泊できる旅館「水屋敷」を経営。ユニバーサルツーリズムに対応した施設やサービスの改良に向けた検討を認知症の人との対話を通じて実施。
- 同社は病気や障害のある方の雇用にも注力しており、軽度認知症の人の「就労」をテーマにした取組も推進中。

株式会社小谷常×京都府認知症応援大使

- 日付：10月8日～10月9日
- 場所：『水屋敷』
- 参加者：認知症の人 1名、ご家族 1名
- 実践内容：実際に宿泊してもらい2回意見交換を実施。



【応援大使のご意見】

- 普段、ビジネスホテルに宿泊する際には客室が分からなくなることがあるので、必ず部屋番号の写真を撮る。今回は戸建てだったので迷いにくかったが、食事の帰りに少し迷いかけた際には、仲居さんが声掛けをしてくれ、スムーズでした。
- 室内の案内図やアイコン表示、周辺マップがあると良いと思う。
- 大浴場がある場合は着替えカゴに名前の紙などがあると助かる。

【ご家族のご意見】

- ほとんどの方は認知症になると旅行を諦めてしまう。
- 行けると思っていないので旅行のチラシも見なくなる。水屋敷の様に情報発信している所を見つけられれば行きやすくなる。

【ご意見を踏まえた対応（2024年10月時点）】

- 意見交換直後から、旅館全店に対して以下を周知・教育。
○お客様から予約時に申告があった場合「何か配慮など必要か聞く」
例) 客室について（入口近くがよいのか？ 静かな所がよいのか？）
食事時間について（その日の予約状況によって座席指定など）
- お客様の症状によっては自分の脱衣荷物が分からなくなる事がある為、名前を紙に記入して、カゴにつけることができるようにする。
- フロントはチェックイン時に気付いた事があれば仲居に伝達・入力する。
- 配膳時に気付いた事があれば申し送り書に記入

実践事例：経済産業省

- 経済産業省では、認知症の人との意見交換やワークショップ等を通じて、「オレンジノベーション・プロジェクト」をはじめとした認知症の啓発活動をさらに良いものにするための方策の検討を実施。
- 神奈川県と八王子在住の認知症の人と計5回、延べ32名と実践を行い、成果物を制作。

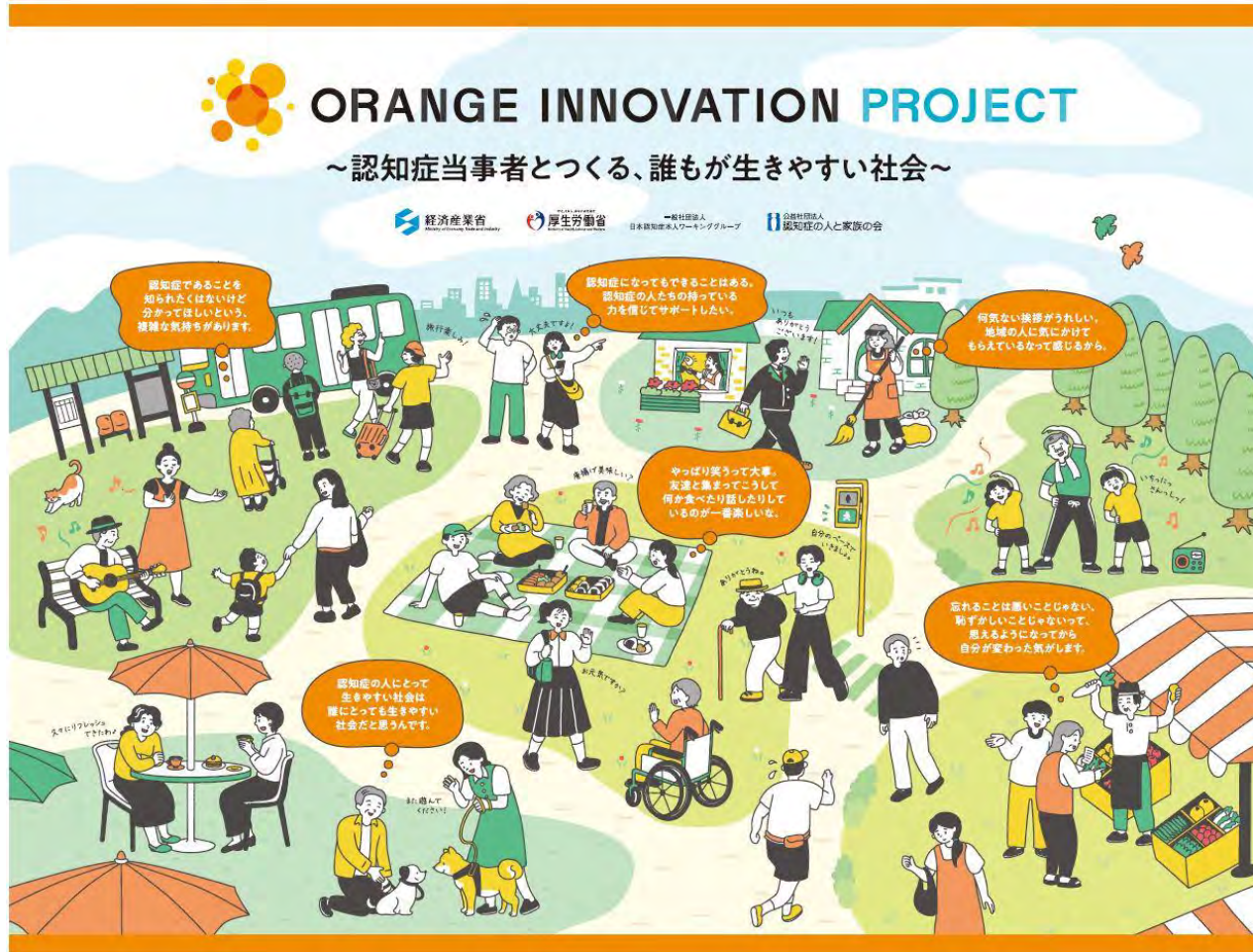
取組名	•「オレンジノベーション・プロジェクト」等、認知症啓発活動
実践内容	•意見交換やワークショップ等を通じて、啓発活動をさらに良いものにするための方策の検討を実施。
参画した認知症の人	•かながわオレンジ大使 •八王子市の認知症カフェ等に参加している認知症の人
実践日	•1月29日【2名】 •2月21日【8名】 •3月11日【8名】 •5月23日【8名】 •7月4日【6名】 ※【】内の数値は参画した認知症の人の人数
当事者からの声	•天気や時間に左右されないものが良い •ドレスアップによって、認知症の理解促進につながるのか他の手法も検討するべき •単発ではなく、毎月のように継続的にイベントや発信を行っていくことが重要 •認知症であることを知られたくないけど、分かってほしいという複雑な気持ちがある •認知症の人にとって生きやすい社会は誰にとっても生きやすい社会だと思う 等



【参考】 経済産業省実践の成果物

- 経済産業省では前頁の当事者との共創の成果物としてオレンジイノベーション・プロジェクトのPR用のバックパネルを制作し、イベント等で広く活用中。

認知症の人とともに制作した成果物（バックパネル）



「当事者発信」の取組：実施状況

- 昨年度より、認知症の人が企業に対してどのような製品・サービスを開発してほしいか等を提案する「当事者発信」の取組を開始。今年度も取組を継続するとともに、昨年度の実践を通じて得た認知症の人の声を企業公募等にも活用した。

①当事者発信

認知症の人 → 企業

認知症の人が企業に対して、
どのような製品・サービスを開発してほしいか、
どのような企業に開発してほしいかを提案する

2023年度から開始



②企業発信

認知症の人 ← 企業

製品・サービスの開発を行いたいと
考えている企業と認知症の人をマッチングする

2020年度頃から開始

「当事者発信」の取組事例（2023年度実施） 鳥取市の本人ミーティング×イオンモール鳥取北店

散策のご様子



認知症の人とともにイオンモール
鳥取北店を見て回り、互いに
気付いた点等に関して対話を実施

案内表示が上の方にあり、
商品棚に隠れてしまっていて、見つけにくい。
案内表示の文字や標識の文字が小さい。

ティータイムのご様子



靴のファスナーのつまみが小さく、
本体と同じ色でわかりにくい。
開け閉めがしやすいファスナーがほしい。

着脱しやすく、おしゃれなボタンもあるが、
マジックテープで留めることができる服がほしい。

「当事者発信」の取組：YKK株式会社の取組

- 「当事者発信」の取組で「開けやすいファスナー」を期待する声があったことから、同社にプロジェクトへの参画を打診。自社の製品・技術が認知症の人の生活課題の解決に役立つことを知り、参画を決定。
- 大阪府北区の在宅デイサービスセンターかみやま倶楽部、鳥取県鳥取市の本人ミーティング等に参加する認知症の人とともに開発を実施中。

第二弾 No.15 誰でも開け閉めがしやすいファスナー

誰でも開け閉めがしやすいファスナーの商品開発に協力いただける方を募集しています

「衣類などのファスナー開け閉め」の体験会を実施します

従来と変わらず生活が出来る環境をサポートする為、より良いファスナー等の商品の将来的な提供に向け、ご意見を伺いたいと思っております。皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

挿入口が広く見えやすいスライダー
スライダー開口部の下面を大きくすることで、従来より広い角度からファスナーを差し込みやすくしています。

オープンファスナーの挿入を補助するパーツ
オープンファスナーの挿入を補助し、操作性の向上を目的とした後付樹脂パーツです。

マグネットの磁力により開具が引き合うファスナー
左右の開具にマグネットが内蔵されており、マグネットの引き合う力で開具が簡単に組み合います。

・YKKからの事前の承諾なく、転載・複製・改変等は禁止します。

YKK株式会社×かみやま倶楽部

- 日付：10月23日
- 場所：かみやま倶楽部
- 参加者：認知症の人 3名、家族・支援者 2名



当事者の声

衣料、ポーチ等でファスナーの開け閉めを自身で行いたいが、初期動作、開け閉めで、手が思うとおり動かず、上手く扱えない。自身でファスナー付きの製品を扱えるようになれば嬉しい。

企業担当者の声

ファスナーの開け閉めが少しずつ難しい要因がいくつも重なり扱えなくなっている事を当事者の皆様との協働により改めて知った。ファスナーの付いた製品の使用を諦めない方法を当事者の皆様と引き続き検討したい。

採択企業向け講座・研修の実施

- 日本認知症本人WG、issue+design、100BLG株式会社と連携し、認知症の人と企業の共創支援の一環として、企業担当者を対象とした講座・研修を今年度より開始。
- 7月に座学形式の講座、10月に介護事業所で認知症の人とともに1日を過ごす体験型研修を開催。

座学形式の講座（7月）

- 企業の皆様へのメッセージ（日本認知症本人WG）
- 認知症の人の見えている世界や当事者とともに開発を進める際の心得等に関する講演、グループワーク（issue+design）



介護事業所に訪問しての体験型研修（10月）

- BLGの活動紹介や研修の目的等に関する事前説明会（オンライン）
- 関東圏域のBLG介護事業所にて、当事者とともに各種活動に参加（実地）
- 当事者とともに活動したことに関する振り返り・交流（オンライン）



参加した企業担当者の声

- 認知症であるかどうかは関係なく、その人個人と対話することが重要だと感じた。今後の開発活動の中で色々な人と接すると思うが、その人自身と向き合っていくことを大切にしたい。
- 認知症の人だと思って特別に構えるのではなく、その方の気持ちに寄り添うようにお話を聞くことが大切だと感じた。まだ認知症に関して、知らないことも多いが、これからも知っていくことを続けたい。
- 一緒に何かに取り組むことで相手のことをよく理解できるということを体験を通じて学んだ。対話を大切に取り組んでいきたい。

情報発信イベントの実施状況：開催実績

- 本取組の市民向け普及啓発および企業のPR等を目的として、江東区、大和市で情報発信イベントを開催。
- 今後も関東・関西・九州等で自治体・団体等と連携したイベントを開催予定。

江東区	目的	<ul style="list-style-type: none"> • 市民向け普及啓発および参画企業のPR
	内容	<ul style="list-style-type: none"> • 当事者参画型開発実践企業のブース出展 • 認知症啓発に関するイベント・展示 • 当事者や有識者の講演・トークセッション
江東区	日時	<ul style="list-style-type: none"> • 2024年9月18日（水）10:00～17:00
	会場	<ul style="list-style-type: none"> • イトヨーカドー アリオ北砂店 リーフコート
	開催主体	<ul style="list-style-type: none"> • 主催：日本認知症官民協議会 認知症イノベーション アライアンスワーキンググループ 事務局（経済産業省） • 協力：株式会社イトヨーカ堂 • 後援：江東区
大和市	日時	<ul style="list-style-type: none"> • 2024年9月26日（木）10:00～18:00
	会場	<ul style="list-style-type: none"> • 大和市文化創造拠点シリウス サブホール
	開催主体	<ul style="list-style-type: none"> • 主催：大和市、日本認知症官民協議会 認知症イノベーション アライアンスワーキンググループ 事務局（経済産業省） • 後援：神奈川県

入場無料

認知症当事者とともにつくる製品・サービスが集まります!

認知症当事者をつくる誰もが生きやすい社会

～オレンジイノベーション・プロジェクト 開発製品展示会～

9/18 水 10:00～17:00

会場：イトヨーカドーアリオ北砂店 リーフコート

企画展示

「認知症とともに生きるわたし」写真展
協力：下坂厚(京都府認知症広域大使) 株式会社朝日新聞社なごみある編集部、100BLC株式会社

認知症の人からの手紙展
協力：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 100BLC株式会社

特別講演

第一部 14:00～14:15
オレンジイノベーション・プロジェクトってなに？
～認知症の人と一緒に過ごせる。ちょっと便利な朝日～

第二部 14:15～14:45
みんなより一足先に認知症になった“私”が伝える、認知症とともに生きること

100BLCメンバー 前田 隼行
100BLC 株式会社 取締役

出展企業

A-Depp株式会社、イトヨーカドー、Welzo、株式会社小谷堂、大塚製薬、株式会社朝日新聞社なごみある編集部、100BLC株式会社、Cosmetec、softdevice inc.、大塚生薬株式会社、Chiyoda、YOSHIMIZU、SOCC、TOYOSHIMA、豊橋鉄道株式会社、日本認知症本人ワーキンググループ、オムロンヘルスケア、MAYIA、LOVIC、オムロン株式会社、ROHTO、YU-KA-I、RENAISSANCE、YOSHIMIZU、MAYIA

主催：日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）
協力：株式会社イトヨーカ堂

オレンジイノベーション・プロジェクト 特設サイトはこちら! URL: <https://www.dementia-pr.com/>

入場無料

認知症当事者とともにつくる製品・サービスが集まります!

認知症当事者をつくる誰もが生きやすい社会

～オレンジイノベーション・プロジェクト 開発製品展示会～

9/26 木 10:00～18:00

会場：大和市文化創造拠点シリウス サブホール

企画展示

「認知症とともに生きるわたし」写真展
協力：下坂厚(京都府認知症広域大使) 株式会社朝日新聞社なごみある編集部、100BLC株式会社

認知症の人からの手紙展
協力：一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 100BLC株式会社

【交通アクセス】

小田急江ノ島線・相鉄本線 大和駅 徒歩3分

お車、自転車でお越しの場合は 有料駐車場・駐輪場をご利用いただけます。

出展企業

A-Depp株式会社、イトヨーカドー、Welzo、Otsuka 大塚製薬、Cosmetec、牛乳石鹸、株式会社朝日新聞社なごみある編集部、100BLC株式会社、株式会社小谷堂、大塚製薬、株式会社朝日新聞社なごみある編集部、100BLC株式会社、Cosmetec、softdevice inc.、大塚生薬株式会社、Chiyoda、YOSHIMIZU、SOCC、TOYOSHIMA、豊橋鉄道株式会社、日本認知症本人ワーキンググループ、オムロンヘルスケア、MAYIA、LOVIC、オムロン株式会社、ROHTO、YU-KA-I、RENAISSANCE、YOSHIMIZU、MAYIA

※出展企業は予告なく変更となる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※会場多量の子供車が必要となる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

共催：日本認知症官民協議会 認知症イノベーションアライアンスワーキンググループ事務局（経済産業省）
後援：神奈川県、大和市

オレンジイノベーション・プロジェクト 特設サイトはこちら! URL: <https://www.dementia-pr.com/>

情報発信イベントの実施状況：主な展示内容

- プロジェクトの理念を踏まえ、イベントの企画検討・各種展示コンテンツ制作は認知症の人とともに実施。
- 採択企業の製品展示に加え、認知症の人を交えた講演を行うほか、「共生社会」や「新しい認知症」を考えるきっかけとなるような「写真展」や「手紙展」等を実施。

「認知症とともに生きるわたし」写真展

- 認知症と診断されてからも、希望を持ちながら活躍する当事者たちの日々のワンシーンを収めた写真を展示
制作協力：下坂厚（京都府認知症応援大使）
株式会社朝日新聞社なかまある編集部、100BLG株式会社



写真展

「認知症とともに生きるわたし」

認知症になっても、人生の主人公は、わたし。
前を向いて、社会の一員として、希望をもって暮らしています。
できなくなったことよりも、できることに目を向け、
やりたいことにチャレンジしていきます。
それがきっと、いいひと時、いい一日、いい人生へとつながっていく。

この写真展では、認知症とともに生きる人々の人生の
一瞬を切り取った写真を通じて、
みなさんに、「新しい認知観」を感じていただければと思います。

写真①②を撮影したのは、若年性認知症当事者の下坂厚さんです。
かつてはフリーのカメラマンをしていたこともある下坂さんが、
今の自分だからできることとして、
やさしいまなざしで認知症の仲間を撮影しました。



プロフィール
京都府在住。1973年6月生まれ。2019年8月、若年性アルツハイマー型認知症と診断される。認知症の自分から見た世界を写真におさめ、SNSで随時公開している。京都府認知症応援大使。著書に「記憶とつなぐ 若年性認知症と向き合う私たちのこと」(双葉社)がある。

認知症の人からの手紙展

- 一足先に認知症になった当事者の人から、まだ認知症になっていないすべての人に向けた直筆の手紙を展示
制作協力：一般社団法人認知症本人ワーキンググループ
100BLG株式会社



「認知症の人からの手紙」展

この展示では、「一足先に認知症になったわたしたち本人(認知症の人)」から「これから認知症になる全ての人たち」に宛てた手紙を展示しています。この手紙は、わたしたち本人の体験や思いを言葉にしたものです。

わたしたち自身も、自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしています。そうした人が少しずつ増えてきています。

この展示を通じて、社会に存在する先入観や偏見が変わっていくとともに、自分や大切な人が認知症になったときに「大切にしたい暮らし」を考えるきっかけとなることを期待しています。

そして、一人でも多くの方が、共生社会に向けた活動を仲間として一緒に進めてくれることを願っています。

協力：一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 100BLG株式会社

その他の広報・情報発信：メディア露出

- テレビ・新聞等のマスメディアにおいても本プロジェクトに関する情報発信が増加傾向。
- 認知症の人及び企業の関心喚起・参画促進に向けた広報・情報発信は今後も継続的に実施予定。

高齢者住宅新聞 (2024年9月25日号)

(9) 2024.9.25 (毎週水曜日発行) 高齢者住宅新聞

認知症関連、産業創出へ

日本総研/経産省

当事者と企業で製品開発

【取材】認知症の人と企業が協力して新たな製品を開発する動きが、業界で広がっている。日本総研と経産省が連携して、認知症の人と企業が協力して新たな製品を開発する動きが、業界で広がっている。日本総研と経産省が連携して、認知症の人と企業が協力して新たな製品を開発する動きが、業界で広がっている。日本総研と経産省が連携して、認知症の人と企業が協力して新たな製品を開発する動きが、業界で広がっている。

NHK おはよう日本 (2024年7月16日放送)



<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240826/k10014559531000.html>

NHK おはよう日本 (2024年10月8日放送)

認知症患者の視点が生み出すイノベーションとは?

24.10.08(火)



https://www3.nhk.or.jp/news/contents/ohabiz/articles/2024_1008.html

その他の広報・情報発信：特設Webサイト、PR動画

- 昨年度開設した特設ウェブサイト（<https://dementia-pr.com/>）上での情報発信は継続中。
- 認知症の人や家族向けのPR動画（4分程度）を大和市の若年性認知症本人・家族会である「わすれな草の会」等と連携して今年度新たに制作。今後の各種PR活動に活用。
- 経済産業省 本館 1階ロビーにてオレンジイノベーション・プロジェクトの写真展・手紙展を開催。

特設ウェブサイトの開設



A 特設ウェブサイトには下記
QRコードからもアクセス可能



PR動画の制作





本館ロビーにて展示会開催



オレンジイノベーション・アワード2024の概要

- 今年度、企業や団体等を対象とした表彰（オレンジイノベーション・アワード）を開催します。

オレンジイノベーション・アワードの概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の生活課題解決や、やりたいことの実現の助けとなる製品・サービスの開発が、様々な業界・領域にて推進され当事者参画型開発の認知が拡がり、共生社会が実現されることを目指し、開催するもの。
対象	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人との共創のプロセスを重視し、そのプロセスや仕組み自体と、そのような過程を経てつくられたユーザーフレンドリーな製品やサービス。
賞の種類	<ul style="list-style-type: none"> 最優秀賞（1組）、優秀賞（2～3組）、特別賞（3～5組）
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 応募期間：2024年11月26日（火）～2024年12月26日（木） 審査期間：2025年1月～2月上旬 受賞発表：2025年2月10日（月）予定 表彰式：2025年3月5日（水） <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">   </div>
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> 一次審査：事務局が書面で審査 二次審査①：認知症の人による審査 二次審査②：家族、有識者等※による審査 <p>※学識者、ビジネス・イノベーションに知見のある有識者、当事者の理解もありメディア・生活者からも認知のある文化人等を想定</p>
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 当事者参画型開発において普遍的な視点となる下記を評価基準とする。 <ol style="list-style-type: none"> ①認知症の人の視点／意見が反映されているか ②独自性／独創性があるか ③認知症の人を含めた生活者のQOL向上にどれだけ寄与するか／期待されるか ④ほかの人たちにも薦めたいと思うか

ご清聴、ありがとうございました。